

後援会員 / 支援会員 (サポーター)

入会ご案内

	後援会 (1963年開設) —後援会員—	支援基金 (2015年開設) —支援会員(サポーター)—
目的	東京バッハ合唱団の活動を、長期にわたり、全面的に後援することを目的とします。	東京バッハ合唱団の各事業を、そのつど財務的に支援し、基盤の安定・充実を図ることを目的とします。
特典	<ul style="list-style-type: none">・定期演奏会(原則として年2回)にご招待します。・「月報」(毎月発行)を贈呈します。・合唱団発行の楽譜・CD等の特価で頒布します。・主催行事をご案内し、ご優待します。・[毎回の練習に出席する余裕のない方、遠隔の方]通常の練習に随時参加歓迎します(新規特典)。	<ul style="list-style-type: none">・「月報」(毎月発行)を贈呈します(12カ月間)。・DMリストに登録し、公演・行事等をご案内します。※ご登録の順に、番号3ケタをつけさせていただき、999番(BWV999「リュートのための《プレリュード ハ短調》)までの到達を目標とします。なお、匿名ご希望の方は、お申し込みの際にその旨ご通知ください。
金額	後援会費 年額(1口)12,000円(何口でも)	金額自由(思いついた時に、いつでも、なんどでも) [月報の制作・送付実費をご配慮頂ければ幸いです]
入会	ウラ面の「入会申込書」をお送りください。 または、郵便局備えつけ(または当団より送付)の「払込取扱票」の通信欄に、「後援会」/「支援基金」の別をお書き込みいただき、①おところ、②お名前、③ご連絡先電話番号をご記入のうえ、お振込みください。 受領をもって入会となります。後援会・支援基金ともに、振込口座は下記のとおりです。 ■口座番号:00190-3-47604 ■加入者名:東京バッハ合唱団	
宛先	東京バッハ合唱団事務局 156-0055 世田谷区船橋 5-17-21-101 MAIL: office@bachchor-tokyo.jp (書式自由、必要事項記入) TEL: 03-3290-5731、FAX: 03-3290-5732 HP: http://bachchor-tokyo.jp/ (「事務局へのお問合せ・連絡」窓口をご利用ください)	

東京バッハ合唱団

後援会員

支援会員(サポーター)

BACH-CHOR, TOKYO

since 1962



<http://bachchor-tokyo.jp/>

ご案内

後援会員、支援会員(サポーター)として 団員とご一緒に 合唱団の活動を、お楽しみください。

1962年創設の東京バッハ合唱団は、2012年に50周年を迎え、さらにその先の半世紀への歩みを始めました。この間、“バッハ”を冠する世界中の合唱グループの中でも、活動中の団体としては、長い歴史を刻む合唱団の一つに数えられることとなりました。私たちの合唱団の50年の歴史は、そのまま日本におけるバッハ受容史(とくに教会カンタータの)そのものでもあります。

原語演奏一辺倒の“クラシック音楽”界にあって、バッハの教会カンタータを邦訳し、楽譜として出版しながら(ブライトコプフ社と提携、バッハ・カンタータ[日本語版]楽譜全集、既刊67曲)、プロのソリスト、オーケストラとともに公演していくという、前人未踏の地道な作業が、かくも長い年月続けられてきたわけで、あらためて、多くの皆さまのご理解とご支援を思い、感謝の心でいっぱいです。

バッハの合唱音楽をできるかぎり高い水準の演奏によってお届けするという、私たちのコンサートの目的は当初より一貫しています。そのために、最高のソリストやオーケストラの方々と協演し、また好環境の演奏会場を確保することが重要であると考えています。その実現にむけ、可能なかぎりの努力と工夫を重ねてまいりましたが、この国において、それが困難な道のりであったことは言を俟ちません。

出演料を準備し、ホール使用料や印刷物制作の予算を確保する……、現状では1回の公演あたり200万から250万円の規模に達します。さらに、活動の継続のためには、少なくとも2年、3年先の予定を視野においていなければならず、つねに次の次、さらなる次の回の契約と準備を同時進行させているわけです。

もちろん上質な演奏のためには、ふだんの合唱練習の密度が重要です。ヴォイストレーナー、練習伴奏者への謝礼を確保し、練習会場や資料制作の費用をまかなうために、

おなじく年額300万円以上の運営費を必要とします。このように、演奏の水準を維持・向上させて、バッハファンの皆さまに充実したコンサートをお楽しみいただくためには、十分でかつ継続的な資金の調達が必要になっていくことをご理解いただきたいのです。

さて、こうした状況に対しては、創立の当初から、欧米の文化行政の事情に通じた多くの先進的な研究者や音楽関係者、美術界の方々が、有効な支援の仕組みをつくってくださいました。創立の翌年(1963年)には、創立者大村恵美子の『礼拝と音楽』誌編集者時代の先輩メンバーであった由木康牧師(1896-1985、讃美歌「きよしこの夜」の訳詞者)と洋画家・田中忠雄(1903-1995)の両氏をはじめ、恩師の辻莊一氏(1895-1987)と服部幸三氏(1924-2009)、さらに洋画家・向井潤吉(1901-1995)氏らの錚々たる顔ぶれを発起人として“東京バッハ合唱団・後援会”がスタートしています。

その後も代をかさねつつ、毎年100名を越える方々が、北海道から沖縄に至るまで、定期演奏会と毎月の月報をつうじ、また創立記念祝会(毎年7月1日前後)、クリスマス懇親会(毎年12月)などでの親睦を重ねながら、年間150万円超の支援を継続してくださっています。これ

が財政基盤の大きな一角になっているのです。もちろん、これで十分なわけではなく、上記支出の大部分は、団員自らが、毎月の団費と公演ごとの上演分担金とで工面しているわけですが、この負担が年々重さを増していることは、ご想像いただけるとと思います。

創立50周年記念の大掛かりな諸企画(2011年-2014年)の完遂には、“創立50周年記念ファンド”が特大の貢献を果たしてくれましたが、当ファンドの終了を機に、私たちの演奏を楽しみにしてくださるご常連の方々のご賛同をいただいて、“東京バッハ合唱団・支援基金”を立ち上げました。上記“後援会”のように、定期公演へのご招待などの特典はありませんが、思いついたときに、そのつどご自由な金額をお寄せいただき、お励ましをいただければと願っております。

いずれかのお仲間にお加わりいただき、東京バッハ合唱団の活動を、団員とともに楽しみいただき、ともに新たな半世紀の歩みを進めていただければと願っています。

東京バッハ合唱団

■オモテ面に、後援会・支援会員のご案内(特典・金額など)掲載

入会申込書 年 月 日

東京バッハ合唱団 後援会 / 支援基金 に入会します。(マルで囲んでお示ください)

・後援会の場合：後援会費 (口 円) [1口、12,000円]

・支援基金の場合：支援額 (円) [金額自由]

ご住所(郵便番号)

お名前

連絡先電話番号：_____

メールアドレス：_____

※ファックス、または郵送でお送りください。メール、またはHPの「事務局へのお問合せ・連絡」窓口をご利用いただく場合は、上記の必要事項(●)をお書き込みください(ご自由な書式で)。お申し込み頂きたい、振替用紙をご返送しますので、ご近所の郵便局にて、ご指定の金額をお振込みください。